

1Ea-2 ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード誌にみる20世紀初頭のファッション(第4報)
—ジョルジュ・バルビエ—

共立女大家政 ○浅野 正子 研谷 悦子 伊藤 紀之

目的 「ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード」(1912-1914)は、20世紀初頭のヨーロッパの文化、芸術の中心人物たちによってパリで発刊された。40名以上のアーティストによる計186枚のプレートは、エッチングにポショワール彩色の精巧なもので、さまざまな生活のシーンが描写されている。本研究では、本誌のアーティストで個性的な描写スタイルで活躍したジョルジュ・バルビエ(1882-1932)について考察する。

方法 バルビエが描写した本誌のプレート及び他の作品をたどり、さらに文献調査とあわせて解析してゆく。

結果 バルビエは1911年頃から没するまでの約20年間、フランスを中心にグラフィックアート分野で活躍した。美術学校時代から、ギリシャ、エジプト、中国、日本などの美術品、またロシアバレエに熱中する。そしてボワレヤルパーブらとの出会いでファッションイラストへの興味をかりたてられ、劇芸術では、作家に追随しないアーティストとなる。本誌では創刊号も含み最も多い29枚のプレートを担当し、アール・デコの香り高い異国趣味を描写した。本誌はバルビエの初期の作品で、まもなく独自の世界へと発展させてゆく契機になったと言えよう。